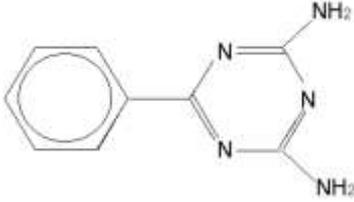


物質名	2,4-ジアミノ-6-フェニル-1,3,5-トリアジン			DB-16												
別名	2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン、6-フェニル-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミン、ベンゾグアナミン		構造式													
CAS 番号	91-76-9															
PRTR 番号	-															
化審法番号	5-1028															
分子式	C ₉ H ₉ N ₅															
沸点	-		分子量	187.21												
蒸気圧	1.19×10 ⁻⁷ mmHg (25°C、推定値) ²⁾		融点	226.5°C ¹⁾												
分配係数 (log P _{ow})	1.36 (実測値) ³⁾		換算係数	1 ppm = 7.66 mg/m ³ (25°C)												
			水溶性	6×10 ² mg/L (22°C、実測値) ⁴⁾												
急性毒性																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>動物種</th> <th>経路</th> <th colspan="2">致死量、中毒量等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラット</td> <td>経口</td> <td>LD₅₀</td> <td>雄 933 mg/kg、雌 1,231 mg/kg⁵⁾</td> </tr> <tr> <td>ラット</td> <td>吸入</td> <td>LC₅₀</td> <td>2,932 mg/m³ (4hr)⁶⁾</td> </tr> </tbody> </table>					動物種	経路	致死量、中毒量等		ラット	経口	LD ₅₀	雄 933 mg/kg、雌 1,231 mg/kg ⁵⁾	ラット	吸入	LC ₅₀	2,932 mg/m ³ (4hr) ⁶⁾
動物種	経路	致死量、中毒量等														
ラット	経口	LD ₅₀	雄 933 mg/kg、雌 1,231 mg/kg ⁵⁾													
ラット	吸入	LC ₅₀	2,932 mg/m ³ (4hr) ⁶⁾													
中・長期毒性																
<ul style="list-style-type: none"> ラットに 0、4、20、100 mg/kg/day を交尾前 2 週から、雄には交尾期間を含む 35 日間、雌には哺育 3 日まで強制経口投与した結果、雄では 20 mg/kg/day 以上の群で体重増加の抑制、100 mg/kg/day 群で 1/12 匹の死亡、赤血球数、ヘマトクリット値の減少、網状赤血球数の増加、血清中の GOT、GPT 等の増加、トリグリセライドの減少、肝臓相対重量の増加、肝臓の小葉中心部の肝細胞の肥大を認めた⁷⁾。この結果から、NOAEL を 4 mg/kg/day とする。 ラットに 0、1.9、19、173 mg/kg/day を 90 日間混餌投与した結果、173 mg/kg/day 群の雌雄で円背位姿勢、立毛、体重増加の抑制、血清中の GPT、ビリルビン濃度の増加、肝臓の小葉中心部の肝細胞肥大、脾臓での髓外造血亢進、副腎球状帯細胞の肥大及び空胞化、炎症細胞浸潤を伴う膵臓外分泌細胞の変性、腎臓及び脾臓でのヘモジデリン沈着、雌で肝臓重量の増加を認めた⁸⁾。この結果から、NOAEL を 19 mg/kg/day とする。 																
生殖・発生毒性																
<ul style="list-style-type: none"> ラットに 0、4、20、100 mg/kg/day を交尾前 2 週から、雄には交尾期間を含む 35 日間、雌には哺育 3 日まで強制経口投与した結果、4 mg/kg/day 以上の群で性周期、交尾率、受胎能、着床数等の生殖への影響はなかったが、雌では 20 mg/kg/day 以上の群で分娩時または哺育期の仔集め及び保温の不良、100 mg/kg/day 群の死産率の増加を認めた。また、100 mg/kg/day 群で 1/12 匹の死亡、体重増加の抑制、肝臓の小葉中心部で肝細胞の肥大を認めた。出生仔では 20 mg/kg/day 以上の群で 4 日生存率の低下、100 mg/kg/day 群の出生時の低体重を認めた。4 mg/kg/day 以上の群で外部形態に異常のある出生仔はなかった⁷⁾。この結果から、生殖毒性の NOAEL を雄で 100 mg/kg/day、雌で 4 mg/kg/day、仔の NOAEL を 4 mg/kg/day とする。 																
ヒトへの影響																
<ul style="list-style-type: none"> 眼を軽度に刺激する。眼に入ると発赤を生じる⁹⁾。 																
発がん性																
IARC の発がん性評価：評価されていない。																

許容濃度

ACGIH	—
日本産業衛生学会	—

暫定無毒性量等の設定

経口ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた NOAEL 4 mg/kg/day（体重増加の抑制）を採用し、試験期間が短いことから 10 で除した 0.4 mg/kg/day を暫定無毒性量等に設定する。

吸入ばく露について、暫定無毒性量等は設定できなかった。

引用文献

- 1) SRC, Syracuse Research Corporation (2009): SRC PhysProp Database, (<http://esc.syrres.com/interkow/physdemo.htm>)
- 2) Neely, W.B. and G.E. Blau (1985): Environmental Exposure from Chemicals, Vol. 1. CRC Press, Boca Raton, FL.
- 3) Hansch, C., A. Leo and D. Hoekman (1995): Exploring QSAR - Hydrophobic, Electronic, and Steric Constants. American Chemical Society, Washington, DC.
- 4) Budavari, S. (ed.) (1996): The merck index - Encyclopedia of chemicals, drugs and biologicals. 12th ed. Merck and Co., Inc. Rahway, NJ.
- 5) 化学物質点検推進連絡協議会(1999): 2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジンのラットを用いる単回投与毒性試験. 化学物質毒性試験報告. 7: 243-246.
- 6) Hazleton U.K. (1989): this substance: Acute inhalation toxicity study - LC₅₀ rats, Report No. 5907-556/4, April 1989 (@14). Cited in: OECD (2001): SIDS Initial Assessment Report. 2,4-Diamino-6-phenyl-1,3,5-triazine. CAS No: 91-76-9.
- 7) 化学物質点検推進連絡協議会(1999): 2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジンのラットを用いる反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験. 化学物質毒性試験報告. 7: 247-257.
- 8) SafePharm Laboratories Ltd., Derby (1993): Ninety Day Repeat dose Oral (Dietary) Toxicity Study in the Rat. Project No. 521/3 (@41). Cited in: OECD (2001): SIDS Initial Assessment Report. 2,4-Diamino-6-phenyl-1,3,5-triazine. CAS No: 91-76-9.
- 9) IPCS (2006): International Chemical Safety Cards. 1680. 2,4-Diamino-6-phenyl-1,3,5-triazine.